

■はじめに

希望と不安を胸に養護教諭としてスタートした3年前の4月、最初に圧倒されたのが幅4mを越える保健室前の掲示板でした。何かを生み出すことが苦手な私は、すばらしい実践事例の数々を参考にして掲示物を作成してきました。毎月繰り返すうちに、発信するだけでなく、掲示物から子どもたちと会話が生まれるといいな、と意識するようになりました。

そんなとき、あるワークショップをきっかけに「カラーコミュニケーション」という言葉を知り、色の力を活用した掲示物を取り入れてみました。

■色の力を活用した掲示物

カラーコミュニケーションを取り入れることにより、色の意味を通して自分の気持ちを伝えたり、それを受け止め、寄り添ったりすることができると考えました。

私の保健室には、ハーバリウムオイルとインクで作成した7色のカラーボトルと、それぞれの色に込められた意味を「気になる色はどれかな?」という問いとともに掲示しています。



■子どもの様子

色鮮やかなボトルに、子どもたちは興味津々です。選んだ色の言葉を見て、「合ってる!」と目を丸くしたり、「〇〇は、緑色だな」とクラスメイトを色で説明し

たりする姿がありました。そんな子どもたちの一言を拾い、会話を広げることで、新たな一面を知ることができる場面もありました。

また、会話はなくても、ボトルを見つめ、太陽にかざしながら「きれい〜」と癒やされているような姿も見られました。

■おわりに

カラーコミュニケーションという言葉に出会ってから、色を介することで、会話の切り口になったり、話を深く掘り下げたりできる可能性があるのではないかと感じています。また、長期的に活用することで、子どもたちの変化に気付く新たな手立てにな

新得町立
新得小学校

養護教諭
戸田 朱音

るのではないかと考えています。まだ導入したばかりなので、今後も色のもつ力について学びを深めながら、子どもたちと向き合っていきたいと思います。

健やかな心と体

～「色」の力を味方のひとつに～